

令和 7 年度事業報告書

社会福祉法人日吉たには会

I . 法人運営（法人全般業務）

（１）役員（令和８年３月３１日現在）

- ・理事 定数 ７名 現在数 ７名
- ・監事 定数 ２名 現在数 ２名

（２）評議員

- ・評議員 定数 ９名 現在数 ９名

（３）理事会の開催

- ①令和７年６月４日 出席者 理事 ７名 監事 ２名

【決議事項】

- ・令和６年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・理事・監事候補者（案）について
- ・評議員候補者の推薦（案）について
- ・評議員選任・解任委員の選任（案）について
- ・評議員選任・解任委員会の招集（案）について
- ・はぎの里ふれあいホームの移転改修（案）について
- ・令和７年度第１回資金収支補正予算（案）について
- ・定時評議員会の招集（案）について

【報告事項】

- ・居宅介護支援事業所はぎの里オアシスの廃止届の提出について

- ②令和７年７月１日 出席者 理事 ７名 監事 ２名

【決議事項】

- ・理事長の選任について
- ・業務執行理事の選任及び業務分担（案）について
- ・はぎの里ふれあいホームの移転改修事業の設計監理業者の選定（案）について

- ③令和７年９月１２日（決議があったものとみなされた日・決議の省略として開催）
理事７名全員の同意書及び監事２名全員の確認書

【決議事項】

- ・はぎの里ふれあいホーム移転改修事業（（仮称）旧興風保育所改修工事）の入札の実施について

- ④令和７年１０月２１日 出席者 理事 ６名 監事 ２名

【決議事項】

- ・（仮称）旧興風保育所改修工事における工事請負契約の締結について（はぎの里ふれあいホーム移転改修事業）

- ⑤令和７年１２月１０日 出席者 理事 ７名 監事 ２名

【決議事項】

- ・運営資金の短期借入れ（案）について

【報告事項】

- ・令和７年度上半期事業報告（事業実施状況・収支状況）について

- ⑥令和８年３月１１日 出席者 理事 ７名 監事 ２名

【決議事項】

- ・改修工事に伴う設備資金の借入れ（案）について

- ・修繕工事に伴う設備資金の借り入れ（案）について
- ・令和7年度第2回資金収支補正予算（案）について
- ・令和8年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について
- ・給与規程の一部改正（案）について
- ・評議員候補者の推薦（案）について
- ・評議員選任・解任委員会の招集（案）について
- ・評議員会の招集（案）について
- ・施設長等の選任（案）について

【報告事項】

- ・令和7年度南丹市指定サービス事業者等運営指導の実施結果について
対象事業所：はぎの里デイサービスセンター
はぎの里ケアプランセンター
- ・令和7年度介護サービス第三者評価の受審結果について
対象事業者：はぎの里デイサービスセンター

⑦令和8年3月31日（決議があったものとみなされた日・決議の省略として開催）
理事7名全員の同意書及び監事2名全員の確認書

【決議事項】

- ・改修工事に伴う設備資金の借り入れ（案）について

（4）評議員会の開催

①令和7年6月26日 出席者 評議員 8名 監事 2名
理事 3名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・令和6年度事業報告並びに計算書類及び財産目録の承認について
- ・理事及び監事の選任について（候補者毎に選任決議）
- ・はぎの里ふれあいホームの移転改修（案）について
- ・令和7年度第1回資金収支補正予算（案）について

【報告事項】

- ・居宅介護支援事業所はぎの里オアシスの廃止届の提出について

②令和8年1月6日

- ・令和7年度上半期事業報告（事業実施状況・収支状況）の送付

③令和8年3月24日 出席者 評議員 8名 監事 2名
理事 3名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・令和7年度第2回資金収支補正予算（案）について
- ・令和8年度事業計画（案）及び資金収支予算（案）について

【報告事項】

- ・給与規程の一部改正について
- ・令和7年度南丹市指定サービス事業者等運営指導の実施結果について
対象事業所：はぎの里デイサービスセンター・はぎの里ケアプランセンター
- ・令和7年度介護サービス第三者評価の受審結果について
対象事業者：はぎの里デイサービスセンター

(5) 評議員選任・解任委員会の開催

- ①令和7年6月17日 出席者 選任・解任委員 4名（内、外部委員1名）
理事 2名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・評議員の選任（案）について

- ②令和8年3月19日 出席者 選任・解任委員 5名（内、外部委員2名）
理事 2名（理事長・業務執行理事）

【決議事項】

- ・評議員の選任（案）について

(6) 監事監査

- ①令和7年5月23日 出席者 監事 2名
・令和6年度法人業務執行状況及び財産状況について
- ②令和7年11月21日 出席者 監事 2名
・令和7年度上半期法人業務執行状況及び財産状況について

(7) 管理者による会議

①管理者会議

- ・理事長、事務局各部長、事業部各マネージャーによる月例会議を開催
- ・法人運営に関する諸課題について検討

②管理職会議

- ・管理職（部長、施設長、副施設長、マネージャー）による月例会議を開催
- ・各施設運営及び職員状況等に関する諸課題について検討

(8) 介護保険法に基づく事業者等運営指導

①令和7年度南丹市指定サービス事業者等運営指導

実施日：令和8年2月20日

対象事業：はぎの里デイサービスセンター

はぎの里ケアプランセンター

指導結果：文書による改善報告を求める事項なし

(9) 介護事故

- ①介護事故件数 46件（令和6年度 42件）
内訳：骨折15件、外傷12件、服薬関係7件、送迎中の事故6件、その他6件
- ②ひやりはっと件数 787件（令和6年度 755件）

(10) 南丹市介護相談員による相談事業

- ・特別養護老人ホームはぎの里、老人保健施設はぎの里、特別養護老人ホームはぎの里オアシス、認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシスで実施

(11) 南丹市・南丹市社協等から依頼のあった委員会等への参画

- *南丹市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
- *南丹市地域福祉計画推進委員会

- *南丹市介護認定審査会
- *南丹市民生児童委員推薦会及び南丹市民生児童委員推薦会日吉準備会
- *南丹市高齢者虐待防止ネットワーク会議
- *南丹市社会福祉協議会日吉町企画小委員会

(12) 旧南丹市立興風保育所改修工事の実施

①はぎの里ふれあいホーム移転改修事業実施の決定

- ・令和7年6月4日開催の理事会及び6月26日開催の定時評議員会で決議

②設計監理業者の選定

- ・令和7年7月1日開催の理事会で株式会社住建設計に決定

③入札要項の決定

- ・令和7年9月12日開催の理事会で決定
- 一般競争入札として実施

④市有施設（建物）譲渡契約の締結

- ・令和7年9月30日契約（10月1日所有権移転）

⑤入札の実施

- ・令和7年10月10日実施 2社応札
- ・株式会社柏原工務店が落札業者に決定

⑥工事請負契約の締結

- ・令和7年10月21日開催の理事会で株式会社柏原工務店に決定
- ・工期は令和7年10月24日～令和8年3月31日

⑦市有土地譲渡契約の締結

- ・令和8年3月18日契約（3月19日所有権移転）

⑧工事竣工・引渡し

- ・令和8年3月31日

⑨施設の規模及び構造

- ・本館の建物の構造 鉄筋コンクリート造 2階建て
床面積 385.02㎡
- ・附属建物の構造 鉄骨造 平屋建て
床面積 98.00㎡
- ・敷地の面積 1775.24㎡

⑩施設整備費内訳

事業費内訳

- ・設計監理費 3,894,000円
- ・工事費 50,896,000円
- ・工事事務費・備品費 1,210,000円

資金内訳

- ・南丹市補助金 40,000,000円
- ・自己資金 16,000,000円

Ⅱ．法人本部事務局

1．総務部

(1) 人材確保の取り組み

①令和7年度採用・退職数

〔採用〕26名

正職員 7名（医師1名・介護職4名・看護職1名・リハビリ職1名）

嘱託職員1名（相談職1名）

准職員 6名（介護職4名・相談職1名・リハビリ職1名）

臨時職員12名（介護職10名・看護職1名・宿直員1名）

〔正職員任用〕1名（相談職1名）

〔准職員任用〕3名（介護職2名・リハビリ職1名）

〔退職〕27名

正職員5名（介護職2名・相談職3名）

准職員8名（介護職7名・相談職1名）

臨時職員14名（介護職12名・看護職1名・宿直員1名）

②レンタル人事サービスの活用

求人サイト掲載求人情報の作成、掲載求人サイトの選定、スカウト送信、応募者対応

・運用求人サイト【無料媒体：5媒体・有料媒体（採用時課金）：6媒体】

・実績【採用：5件】

・求人用ホームページの開設に向けた職員インタビュー実施

③新卒・転職採用活動

新卒求人サイト「R e 就活キャンパス」及び転職求人サイト「R e 就活」による採用・スカウト活動・イベント参加

・令和7年4月26日 R e 就活転職博京都参加

採用者無し

・令和7年9月26日 R e 就活転職博（R e 就活キャンパス就職博）京都参加

採用者無し

④高校生求人活動

・令和7年7月 南丹地域の高等学校に求人票送付

応募者無し

⑤職員確保協力報奨金制度

令和7年度実績 採用者2名

・令和7年6月18日付 介護職・臨時職員

・令和8年1月1日付 介護職・正職員（介護福祉士）

⑥南丹市福祉職場就職フェア（南丹市主催）

・令和6年7月12日 南丹市国際交流会館コスモホール

応募者なし

⑦FUKUSHI 就職フェア京都丹波（事務局：京都府南丹保健所）

（京都丹波福祉職場応援プロジェクト促進会議）

・令和7年10月11日 ガレリアかめおかコンベンションホール

応募者なし

⑧福祉職場就職面接会（ハローワーク主催）

・令和7年10月30日 ハローワーク園部

応募者なし

(2) 人材定着の取り組み

①人事考課の実施

対象：正職員・嘱託職員・准職員

令和7年度夏季人事考課：令和7年5月7日～6月23日

令和7年度冬季人事考課：令和7年10月6日～11月11日

②異動意向調査の実施

第1回：令和7年6月20日～6月30日

第2回：令和7年12月10日～12月23日

③定年退職者及び有期雇用職員に対する雇用継続意向調査の実施

令和7年12月17日～12月26日

(3) 永年勤続表彰の実施【令和7年7月10日】

10年勤続者 9名（感謝状・金一封の贈呈）

20年勤続者 6名（感謝状・金一封の贈呈）

(4) 職員の処遇改善の取り組み

①初任給引上げ（処遇改善加算を活用）

・令和7年4月に月額5,000円引上げ（大卒介護職初任給195,000円）

②正職員の基本給昇給（処遇改善加算活用）

・令和7年4月に平均月額5,337円（昇給率2.18%）昇給

ベースアップ3,000円＋定率昇給0.9%

③最低賃金の改定に伴う初任時間給の改定（処遇改善加算活用）

・令和7年11月に初任時間給を1,060円から1,100円に40円昇給

・初任時間給1,100円＋処遇改善手当60円＝1,160円が時間給最低支給額

④介護施設等職員処遇改善等推進事業費補助金による一時金の支給

・令和7年7月10日支給の賞与にあわせて支給

対象者 181名 支給額 4,542,120円

常勤職員1名あたり33,000円（准職員・臨時職員は常勤換算率に応じて支給）

勤務実績算定対象期間 令和6年12月～令和7年3月

⑤処遇改善一時金の支給（処遇改善加算活用）

・令和7年5月20日支給（令和6年度第3回分）

対象者 178名 支給額 5,816,350円

・令和7年10月20日支給（令和7年度第1回分）

対象者 195名 支給額 6,197,440円

・令和8年3月19日支給（令和7年度第2回分）

対象者 190名 支給額 6,283,430円

・職種別一時金年間支給額内訳

経験・技能のある介護職員 170,000円～198,000円

他の介護職員 100,000円～167,000円

その他の職種 65,000円～108,000円

(5) 職員の健康管理

①職員健康診断・頸肩腕腰痛症健診1回目

- ・令和7年8月19日～21日（19日、20日は日吉、21日はオアシス）
- ・職員健康診断 受診者131名 要再精検者51名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者111名 有所見者 5名

②夜勤従事者健康診断・頸肩腕腰痛症健診2回目

- ・令和8年2月19日～20日（19日、20日午前日吉、20日午後オアシス）
- ・夜勤従事者健康診断 受診者50名 要再精検者20名
- ・頸肩腕障害腰痛健診 受診者110名 有所見者 4名

③ストレスチェックの実施

実施期間 令和7年11月1日～11月14日

実施者数 174名

(6) 衛生委員会の開催

- ・毎月開催
- ・職員の時間外勤務状況、感染症発症状況、職員のケガや病気の報告
- ・毎月のテーマに沿った検討（健康診断や予防接種など）

2. 経理部

(1) 安定した収支に向けた取り組み

経理部会議 収支状況の確認（前年度との比較）結果を法人へ報告
会計監査 報告書の回覧
予算執行の精査 収支のバランスを見た予算執行
支出見直しの提案

(2) 令和7年度の収支

令和7年度は、昨年度を上回る赤字となりました。
現在の法人の経営状況は極めて厳しく、支出が収入を上回る状況が続いています。各事業所で収入確保に取り組んでいますが、改善していません。あらゆる物価の上昇も続いています。次年度経理部ではこれまで以上に具体的な支出の見直しと提案を行い、収支改善を行います。

(3) 各保険の見直し、更新

9月 自動車保険更新（公用車 21台）

3月 各種保険の更新

（雇用管理賠償責任保険、役員賠償・業務災害総合保険、事業活動総合保険介護保険・社会福祉事業者総合保険等）

3. 企画部企画課

(1) 法人主催行事

①はぎの里敬老祝賀式

9月19日(金) 10時～ 会場 第二ケアハウスはぎの里ホール

祝賀対象38名 参加25名

来賓 京都府南丹広域振興局長・南丹市長・南丹市社会福祉協議会長・
南丹市高齢福祉課長

次第 祝品贈呈(新百歳6名・白寿2名・卒寿14名・米寿16名)

祝辞、記念撮影

②はぎの里秋祭り中止

地域住民との交流を目的とした大規模行事は、感染リスクが高いため中止しました。

(2) 地域貢献

①おれんじスポットひよし(認知症カフェ)企画運営送迎協力

(関係機関実行委員会形式) 奇数月1回3名～8名の送迎

(場所 いきいきオアシス日吉 コミュニティルーム

・殿田小学校児童との交流・生畑なずなカフェ)

②興風交流センターデイサービス事業企画送迎協力〔通称 田原なごみ会〕

(南丹市人権政策課・南丹市社協・はぎの里)

南丹市社協と役割分担し、迎えのみ月2回実施 毎月第1第3木曜

1回の迎えは、3～5名

6月17日送迎 3名・アルプラザでボウリング

12月19日送迎14名・道の駅 味夢の里

③「まちカフェサロン」まちカフェモーニングの会送迎協力(胡麻地域対象)

毎月第2日曜 10時～12時 1回の送迎は、4～8名程度

4月 花見ドライブ31名送迎

④「ごまデイ」胡麻地域まちづくり協議会送迎協力

5月 外出・和知山野草の森・和知道の駅「和」 14名

11月 外出・園部町仁江「龍穩寺」紅葉狩りと道の駅「新光悦村」 11名

⑤日吉「新町イキイキサロン」送迎協力

6月 外出・れいん房 15名

⑥「ささえサロンカフェ」送迎協力

4月 外出・マツモト園部店・ダイコー・道の駅「新光悦村」 14名

⑦地域清掃活動

・特養正門前～遊 you ひよし間の歩道及び車道のゴミ拾い(毎月)

実施者 特別養護老人ホームはぎの里・老人保健施設はぎの里・

ケアハウスはぎの里・はぎの里ケアプランセンター 各職員

・横田区環境美化作業に参加(4月・10月・3月)

参加者 オアシス職員

⑧地域行事協力

・日吉 夕涼み会(実行委員)

祭り当日8月23日 要員3名とカラオケ貸出、翌日後片付け1名

・園部 横田区夏祭り

- 祭り当日 8月16日 要員3名とかき氷器貸出
- ・園部 横田区ゆるっとスポーツ広場 防災訓練（消防団による搬送）
11月8日 要員2名 レスキューベンチ貸出

⑨学校関係

- ・殿田小学校4年生 総合的な学習の時間「高齢者福祉」に伴う施設見学等受入（通所リハビリ）
5月23日 施設見学とお話 児童8名
11月28日 レクリエーションで交流 児童8名
- ・殿田中学校2年生・職業体験学習受入（デイサービス）
11月12日～14日 生徒2名
- ・園部小学校4年生オンライン交流会（特養オアシス）
11月17日 特養オアシス食堂と学校をつなぐ（オンラインゲームプロジェクト）

（3）はぎの里後援会事務局として

- 5月17日 監事監査・地域担当幹事会
- 6月22日 総会・通所リハビリホール
 - ・令和6年度 事業報告及び会計決算報告
 - ・令和7年度 事業計画（案）及び会計予算書（案）
 - ・任期満了に伴う役員改選
- 2月18日 三役役員会・特養研修室
 - ・法人への備品提供支援の協議
- 3月12日 法人への備品提供支援 ベッドサイドテーブル4台

4. 企画部介護保険課

（1）介護給付費算定に係る体制等に関する届出書について

令和7年10月1日付、特定事業所加算Ⅲ算定
対象事業 ケアプランセンター

（2）指定内容の変更に関する届出について

①令和7年4月1日付、

対象事業 特養オアシス 介護支援専門員変更
老人保健施設（短期含む） 管理者・介護支援専門員変更、運営規程変更、言語聴覚士条項追加
通所リハビリ・訪問リハビリ 管理者変更、運営規程変更
言語聴覚士条項追加

②令和7年8月1日付、

対象事業 訪問リハビリ 運営規程変更・通常の実施地域の拡大

（3）協力医療機関に関する届出について（毎年）

特養・老健・特養オアシス・グループホーム・ケアハウス・第二ケアハウス

(4) 京都府による老人保健施設無料低額事業に係る調査の実施

- ・令和6年度の事業実施状況について資料による調査の結果、実施証明を受けました。
事業期間更新 令和7年8月1日から令和8年7月31日

(5) 事業休止について

- ・はぎの里ふれあいホーム（小規模多機能型居宅介護・予防）事業については、利用者ニーズにそぐわず利用者確保ができないことから令和7年3月末で休止としました。

(6) 事業廃止について

- ・令和7年7月16日付、居宅介護支援事業所はぎの里オアシス

(7) 介護保険事業集団指導

- ・令和7年度京都府介護保険サービス事業者等に係る集団指導
京都府ホームページでの動画配信及び資料掲載による実施となりました。
対象事業 特養、老健、通所リハビリ、訪問リハビリ、訪問介護
- ・令和7年度南丹市内地域密着型サービス事業所集団指導
南丹市ホームページ掲載の資料確認となりました。
対象事業 デイサービス、特養オアシス、グループホーム、ふれあいホーム
- ・令和7年度南丹市内居宅介護支援事業所集団指導
南丹市ホームページ掲載の資料確認となりました。
対象事業 ケアプランセンター

(8) 資格研修修了状況

- ・令和6年度京都府介護支援専門員実務研修（試験合格者）
修了2名（通所リハビリ1名・特養オアシス1名）
- ・令和7年度京都府認知症介護実践者研修（人員要件研修）
修了2名（グループホーム・特養オアシス 各1名）
- ・令和7年度京都府認知症介護リーダー研修（人員要件研修）修了（特養1名）
- ・令和7年度京都府認知症介護基礎研修（無資格者の法定研修）
修了2名（デイサービス1名・グループホーム1名）

(9) 介護保険事業指定更新

- ・はぎの里訪問介護事業所 京都府指定 7月17日
- ・特別養護老人ホームはぎの里（短期・予防短期） 京都府指定 令和8年4月1日
- ・老人保健施設はぎの里（みなし指定
短期・予防短期・通所リハビリ・予防通所リハビリ）
京都府指定 令和8年4月1日
- ・はぎの里ケアプランセンター 南丹市指定 令和8年4月1日

(10) 新規事業開設準備

- ・はぎの里興風デイサービスセンター（地域密着型通所介護・第1号通所事業）
事前協議、新規開設申請、介護給付費算定に係る体制等に関する届出
老人福祉法・老人デイサービスセンター等設置届出

Ⅲ．事業部技術専門室

1．介護部

(1) 介護職員としての知識技術向上

人員不足や感染症の影響により、全体研修会や各事業所における研修会への相互参加は実施できませんでした。

(2) 各種関係機関との連携による人材確保により、効果的な介護職員の採用

インターネット媒体での求人や知人の紹介等により幅広く視野を広げた求人活動を行いました。フルタイム職員獲得に至らず効果的な採用には至りませんでした。

外国人人材採用に向け情報収集を行いました。

(3) 離職防止・働き方改革への対応

例年毎月実施している介護部会議については、各号館に介護部チーフを配置することが出来ず、今年度は実施できませんでした。

管理職会議において、人員状況の情報共有とともに、人事に関する検討会議を実施しました。問題が発生した際には、適宜職員面談を実施し、担当管理職と共に対応を行いました。

2．看護部

(1) 人材確保・定着に向けた取り組み

看護協会や人材紹介会社等と連携して人材確保に取り組み、今年度は1名の正職員を採用しました。

今後は、定着に向けた取り組みとして、各事業所に指導職を配置して、互いの考えを認め、チームの目標を共有できるよう働きかけ、働きやすい職場作りを進めます。

(2) 研修会の開催

変化する利用者の多様な健康ニーズに対応するため、幅広い知識、技術の習得が求められますが、日々の業務に追われ研修会が開催できておらず、自主的な学習にとどまっています。

3．相談支援部

(1) 指導職会議の取り組み

今年度は、計4回の指導職会議を実施しました。会議では、稼働率向上に向けて相談支援部として取り組める方策を検討し、指導職が日常業務の中で法人全体のサービスを積極的に案内するなど、継続的な働きかけを行いました。これらの取り組みにより、事業所としての役割やサービスの周知を進める体制づくりを図ることができました。

次年度に向けては、事業所間の横のつながりをより大切にし、情報共有や連携を強化することで、組織全体としての支援力を高めていきたいと考えています。また、各事業の窓口業務を担う職員の質をさらに向上させ、ご利用者に対してよりの確で一貫した対応ができる体制づくりにも取り組んでいきます。

(2) 職員の資質向上の課題

今年度は指導職の退職や異動が重なり、各職員が担当業務に追われたことで研修会の開催が十分に行えませんでした。また、新たに採用した職員が定着せず、離職理由として業務量の多さが指摘されるなど、働きやすい環境づくりにも課題が見られました。

施設部門では、入退所調整やケアマネジメントなど多様な役割が広がる中で、相談援助が業務全体の中で占める位置づけにも変化がみられています。一方で在宅部門は、利用受入調整や相談援助が業務の中心であり、相談内容の多様化に加えて事務量や給付外対応も多く、扱う業務の範囲が広がっています。両部門それぞれの役割の特性と変化を踏まえ、サービスの質を維持しながら効果的に業務を進められる体制づくりが求められています。

4. 研修担当部

(1) 法人職員基礎（新人）研修

第1回 5月16日・6月13日の2日間 受講者9名

第2回 10月17日・11月21日の2日間 受講者7名

会場 特別養護老人ホーム研修室

研修内容 法人の概要及び組織・理念・方針 他12講義

(2) 指導職対象研修

インターネット研修

9つの講義から選択受講

ストレスマネジメント・業務改善・信頼関係構築など

研修期間 5月23日～3月31日 受講者8名

(3) 中堅職員研修

インターネット研修

介護従事者の「気づき」の力を高める研修

研修期間 5月23日～3月31日 受講者8名

(4) 職員個別課題研修（新）

インターネット等活用研修

職員自身が課題としていることの内容を自ら選択し、能力開発やサービス向上につなげる。

研修期間 11月1日～3月31日 受講者14名

(5) メンタルヘルス研修（オンライン）

2月25日 受講者31名

会場 通所リハビリホール・オアシス多目的室

研修テーマ よりよい人間関係を築くためのコミュニケーションのコツ

講師 公認心理師 吉岡 諒 氏

協会けんぽ健康講座（委託先 株式会社バックテック）

(6) 虐待防止研修

11月27日 受講者18名 会場：デイサービスホール
講師 京都保育福祉専門学院 副学院長 岡本匡弘 氏

(7) インターネット配信研修（お茶の水ケアサービス学院・ユーチューブ他）

実施状況

各事業所単位で研修計画を立て受講

4月7名、5月61名、6月25名、7月59名、8月51名、
9月39名、10月17名、11月36名、12月23名、1月16名、
2月57名、3月13名

※お茶の水ケアサービス学院研修は下記講義から選択

専門研修フルバージョン182講義

15分研修シリーズ 230講義（フルバージョンの一部）

15分情報公表対応編 130講義

30分研修シリーズ 269講義・介護塾45講義

アーカイブ配信研修 257講義

セラピスト向け研修 68講義

(8) 資格取得支援

①介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会

参加者4名 全5回で6月から月1回開催
合格者3名（内2名本勉強会参加者）

②介護福祉士受験対策

受験者個別対応で、希望者には参考書・受験対策講座幹旋など
対象 2名（概数）

(9) 研修担当部会議 月1回開催

①年間研修計画の策定検討について

②令和7年度法人内事業所単位研修会（勉強会）年間計画【予定】を配布
研修計画の共有により、事業所間で相互に受講できる仕組み

③新規採用者対象法人基礎研修の実施について

④指導職対象研修・中堅職員対象研修について

⑤職員個別課題研修について（新）

⑥虐待防止研修について

⑦認知症介護基礎研修の計画的受講・認知症介護実践者研修の計画的受講について

⑧介護支援専門員実務研修受講試験対策勉強会について

⑨外部研修案内の周知について

⑩メンタルヘルス研修について

⑪法人内事業所サービス評価計画について

⑫きょうと福祉人材育成認証制度について

(10) サービス評価の継続実施について

- ・定期的に利用者サービスが適切かを意識した運営となるように、法人の理念に始まり、職員倫理綱領に基づいた各事業のサービスが提供されているかを確認するために組織的に取り組むことを目的としています。
- ・評価委員は、管理職・指導職・総合職の3名体制とし、評価対象事業所属以外で選任しました。
- ・サービス評価チェックリストに基づくヒアリング・根拠資料・記録などの確認をもとに評価を行い、結果に委員コメントを記載することで今後の運営に活かします。

実施回数 原則6カ月毎（チェックリスト改定）

第1回 6月23日 対象事業所 老健

第2回 7月7日 対象事業所 訪問介護・訪問リハビリ

第3回 11月20日 対象事業所 グループホーム・特養オアシス

人員体制から全事業所での実施には至らなかったため、次年度見直し予定。

IV. 特別養護老人ホームの経営

(1) 利用実績

①指定介護老人福祉施設（長期入所）定員50名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	45.3	43.6	43.7	44.8	45.2	45	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	44.3	45	43	42.5	44.6	43.4	44.2

②短期入所者生活介護（ショートステイ）定員10名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	239	235	253	301	280	246	
1日平均利用者数	8	7.6	8.4	9.7	9	8.2	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	233	217	222	235	219	201	2881
1日平均利用者数	7.5	7.2	7.2	7.6	7.8	6.5	7.9

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	11	9	1	3	1		1
退所先		5				14	

(2) 実習・その他受け入れ状況

- ・受け入れなし

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
歌のボランティア	歌	9月26日	3名
			3名

(4) サービスの質

多職種共同で介護計画を基にしたサービス提供を行いました。

職員不足が継続しており、食事介助や見守りなどの場面においては看護師や管理栄養士など、他職種が協力しながらの対応となりました。

このような状況であり、ユニットケアとしての個別対応が年々困難な状況となっています。

感染症対策は少しずつ緩和され、今年度は、面会の緩和や施設外散歩などで、外部との接点が増えました。マスク着用など基本的対策は継続中ですが、入所者にとって以前よりは精神的に安定できる環境に近づいたと思います。施設内でクラスターが発生しないよう状況を見ながら、居室面会などコロナ渦以前の面会実施に向けた検討を行います。

健康管理では、看護師が中心となり、バイタル測定や日常の様子を他職種と情報共有し、状態により、経過観察や受診の判断を行うなどの対応を行いました。

栄養面では、管理栄養士が中心となり、摂取量や栄養状態を把握し、必要に応じ食事形態の検討や、栄養補助食品の提案を行っています。

機能訓練は、これまで通り個別で実施しました。日々なかなか確保できない個別での関わりが出来る機会となっています。

その他、食事時の姿勢や車いすや寝具（エアーマットなど）の選択等、入所者個々にあった介護用品を提供できるよう、他職種と連携しました。

(5) 安定した収入確保

令和7年度の実績は、月平均52.1名（長期入所44.2名、短期入所7.9名）となりました。職員が不足する中、収入確保に向け、ベッドコントロールと加算算定に努力しましたが不十分な結果となりました。

現在も、長期・短期入所共に待機者が少なく、入所時より重度の方が多く医療が必要となり、常時一定数の入院者があります

短期入所も同様に利用者が少なく、ベッドが空いている事から、長期入所を希望される方の長期入所が早い事で実績が伸びない状況です。

また、利用料が当施設はユニット型個室料金のため、従来型の施設に比べて高額となることから入所を辞退されるケースがあります。

このような状況の中、次年度は、関係機関への空き情報の提供など利用者確保に向け、日吉町以外の市町村の関係機関への情報提供を行います。退院から入所までの間、法人内他施設で待機して頂くなどの連携を行います。

支出では、老朽化した設備・備品への支出など必要経費以外の節約に務めました。現在定員に満たない状況である為、次年度当初まずは満床に向け努力します。

(6) 職員の資質向上

年間計画を基に、毎月の会議で施設内研修を実施しました。

今年度は、法人職員として、介護職としての資質について課題があり、研修や指導を行う事となりました。職員として、また認知症高齢者が安心して介護を受けて頂ける基礎的な資質については、今後も現状確認と研修を継続します。

研修では、ユニットリーダー研修や、認知症介護実践者等養成研修などの外部研修に参加しました。近隣施設同士で取り組んでいるネットワーク中京都では、各専門職の情報交換と施設長間で経営状況や法改正についての情報交換を行いました。

人材育成の取り組みとして、新規採用職員に対し育成計画を作成しユニットリーダーと施設長で定期的に振り返りと面談を行いました。

その他、職員個々において、自主的にインターネット研修を受講しています。

職員数が十分でない中ですが、次年度も学びの場へ参加し資質向上につなげます。

(7) 地域貢献

美化活動として、施設周辺のごみ拾いを行いました。

9月に、歌のボランティア様の受け入れを行いました。実習生の受け入れはありませんでした。

V. 老人保健施設の経営

(1) 利用実績

①介護老人保健施設（長期入所）定員100名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	78.8	78.1	77.3	79.9	84.5	83.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	83.9	86.5	82.6	82.9	80.0	80.7	81.6

②短期入所療養介護（ショートステイ）長期空床型

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数	6	5	6	10	7	5	
1日平均利用者数	1.2	1.0	1.2	1.4	1.7	1.6	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用者数	10	7	6	4	5	5	76
1日平均利用者数	2.7	1.9	1.3	1.0	0.8	0.9	1.4

③長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	13	84	0	0	4	0	0
退所先	6	78	12	0	2	3	0

(2) 実習・その他受け入れ状況

受け入れなし

(3) ボランティア等受け入れ状況

受け入れなし

(4) サービスの質

感染症の影響により、11月下旬から12月中旬、1月下旬から2月下旬においてコロナウイルスにおける集団感染が発生し、長期間の感染対応が必要となりました。その他においても、面会や行事を制限する必要性があり、ご利用者の生活に大きな支障をきたしました。その中で、出来る限りご利用者やご家族の声を傾聴し、生活支援を行いました。面会に関しては、希望される方が多く、1階に面会スペースを設置し、対面面会を実施しました。

介護職の取り組みとしては、日々の関わりでご利用者と関わりを深めることにより信頼関係構築に努めました。また、各種行事（花や野菜の苗植え・端午の節句・七夕飾り・夏祭り・敬老祝賀会・運動会・クリスマス会、節分行事）や食に関わるイベント（屋台たこ焼き、お茶会、デザートバイキング）、変わりゆく四季の景色を鑑賞していただき、季節を感じながら月に1度はご利用者が楽しめる行事を実施し、3～4カ月に1度行事の様子や日常生活の様子をご家族に向けて新聞を発行する事により、ご利用者の様子や施設での生活を知っていただく機会を設けました。

医療の取り組みとしては、入所時の抗原定性検査実施や日常における感染対策の徹底、日々ご利用者の観察を意図的に行情報共有することで体調の変化に気づき、早期の対応ができるようチームで取り組みました。感染症発生時はご利用者の体調観察を徹底し、重症化予防に努めました。

リハビリの取り組みとしては、ご利用者の「できること」を磨き、増やすことができるように、日常生活の様子を踏まえた上でのニーズの把握と目標設定、それに基づく専門的なアプローチを行いました。また多職種と協同し、ご利用者個々の能力を発揮できる環境や安全面に配慮した環境作りを行うとともに、メリハリのある充実した日常生活にするため、集団体操や作業活動を行いました。

栄養の取り組みとしては、地元産の米や野菜を使用し季節感を取り入れた食事提供に努めました。物価高騰の中でも、可能な限り食事の質を維持できるよう工夫を重ねながら提供を行いました。また、日々の食事観察や多職種との情報共有を通じて、各ご利用者の栄養状態、嚥下機能、嗜好等を把握し、それぞれに応じた食事内容の調整を実施しました。

(5) 安定した収入の確保

年間の利用実績は、長期短期合わせ1日平均83.0名（前年度比－0.6名）で目標（95名）を達成することが出来ませんでした。

要因としては、昨年度に比べ新規入所者数は増加（前年度比＋34名）しましたが、退所者数も増加（前年度比＋26名）しました。体調不良による入院者増加やご利用者がコロナ感染による新規受け入れ中止が一定期間あり、厳しい結果となりました。

短期入所療養介護については、1日平均1.4名（前年度比＋0.2名）の利用があり、昨年度と変化は見られませんでした。

また、本来の老健の役割である在宅復帰に向けた取り組みは、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する点数が、40点以上確保することができ、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定を継続することが出来ました。加算算定を継続していくために、在宅復帰者

の確保、入所退所件数等の確保に努めました。

(6) 職員の資質向上

老健会議を二部構成とし、月1回少人数で研修を実施しました。研修内容は、動画研修を取り入れ当日参加できなかった職員についても同様の動画を視聴できる環境を整え、多数の職員が学びの機会を得ることができました。

京都府老健大会に各専門職が参加し、講演や他施設の取り組みを聞く機会を作り自施設の取り組みへの参考としました。

(7) 地域貢献

地域貢献による取り組みとして、施設周辺の清掃活動をボランティアで8回実施しました。

VI. ケアハウスの経営

(1) 利用実績

①ケアハウス入居状況 定員25名（1人居室11室・2人居室7室）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	18	18	18	17	17	17	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	19	19	19	15	16	16	209

②ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在			1	1	1		
退所先		1	1	2	1		

③第二ケアハウス入居状況 定員32名（1人居室26室・2人居室3室）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初入所者数	29	27	26	28	27	26	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月初入所者数	24	24	24	28	29	27	319

④第二ケアハウス入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	4	1		1			
退所先		1	2	3		2	

(2) ボランティア等受け入れ状況

7月上旬に日吉ゆう薬局薬剤師による熱中症予防対策についての講演をして頂きました。

(3) 安心して自立生活できる“住まい”としてのケアハウス

ご利用者の高齢化、介護の重度化が進み、担当ケアマネジャーとの連携を強化し、ご本人、ご家族の意向や状況に合わせた介護サービスの調整を行いました。

ご利用者の“自活力”（自立して生活できる能力）の維持のために、ご自身のことはご自身でできるように声掛けを継続し、そのような声掛けをする理由の丁寧な説明に取り組みました。

心身ともに介護が必要となっておられるご利用者に対し、次の居場所に向けての相談支援を行なうと同時に、必要な身体介護（排泄対応、入浴対応、食事対応）をケアハウス職員が行い、日々の生活を支援するケースもありました。ご利用者の平均年齢が上がり、医療ニーズも高まっており、今後も目配り、気配り、心配りを基にした気づきで医療連携も強化に努めていきます。

(4) サービスの質

言葉遣いやご利用者に対する態度が適切かどうか、虐待及び身体拘束等防止の観点から月1回のケアハウス会議での振り返りを継続しました。“自活力”の維持を目標とした声掛け支援を行なうことで、ご利用者に対して威圧的に感じられる可能性が高まることから、日常の言葉遣いについて、職員個々が細心の注意を払うように努めました。

職員同士での意見交換を重視して、試行錯誤しながらもご利用者のケアハウスでの暮らしが支えられるように努めました。引き続き、気づきを共有できるように意見交換を重視し、サービスの質の向上に努めていきたいと考えます。

(5) 安定した収入の確保

ご利用者のケアハウスでの様子をご家族にお伝えするケアハウス通信を発行し、情報の発信に努めました。

入居相談の経路としては、担当ケアマネジャー、病院の地域連携室からの紹介、法人内事業所からの紹介が多くを占めています。入居待機者の確保のために、入居相談には丁寧に応じるように努め、必要な情報収集を行ない、どのようにすればご入居後に安心した生活を過ごしていただけるのかの視点で取り組みました。しかし、入居相談の段階で介護認定が高い方や身体介助が必要な方が多くなっていることから、ケアハウスにご入居されてもケアハウスでの生活を長く継続して頂くことが難しくなっているのが現状です。

両ケアハウスにおいて多くの空室があることから、早期に入居につなげられるように努めていきます。

(6) 職員の資質向上

インターネット配信を活用したミニ研修、研修の伝達講習をケアハウス会議に合わせて取り組み、資質向上に努めました。

(7) 地域貢献

施設周辺の清掃活動をボランティアで8回実施しました。

VII. 在宅関係事業

1. 通所リハビリテーション

(1) 利用実績 利用定員30名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	612	626	583	655	631	646	
1日平均	23.5	23.2	23.3	24.3	24.3	24.8	
稼働率(%)	78.5	77.3	77.7	80.9	80.9	82.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	708	653	691	580	593	639	7617
1日平均	26.2	26.1	25.6	24.2	24.7	24.6	24.57
稼働率(%)	87.4	87.1	85.3	80.6	82.4	81.9	81.9

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 柔道整復学科	4月14日～7月25日	73名
明治国際医療大学 鍼灸学科	5月12日～7月24日	47名
明治国際医療大学 看護学科4回生	7月8日・15日	10名
		130名

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
殿田小学校4年生	見学実習・ゲーム等	5月23日 11月28日	16名
平井早苗様	歌・ピアノ等演奏	11月16日・17日	2名
たいぴー様	歌・楽器演奏	8月7日・10月6日 11月15日	3名
			21名

(4) サービスの質

感染症の制限が緩和され、少しずつ以前のような取り組みが出来るよう、ボランティアの受け入れを試みました。運営内容には制限がありましたが、予防対策を徹底し、ご利用者に安心して楽しんでいただける内容を日々検討し取り組みました。

外出を伴う「誕生日会」や「外食会」は再開できていませんが、誕生日会は施設内でケーキ提供を行い、手作りの色紙と、記念写真撮影を行い、皆さんと一緒にお祝いをしました。外食会の代替としてお弁当を注文し、普段と違った雰囲気味わっていただきました。レクリエーションについて、満足度調査での意見を参考に、クイズ以外の体を使ったレクリエーションに変えていけるように、少しずつ取り組みを検討しました。カラオケ機器（DAM）のレクリエーションや体操を活用したり、オンラインレクリエーションに参加し、月替わりの行事を企画し取り組みました。ご利用者ご家族の声に耳を傾け、安心してご利用いただけるようにサービスの改善に努めました。

また、サービス担当者会議や、退院時カンファレンスに積極的に参加し、ご利用者、ご家族、担当ケアマネジャーとの情報交換や交流を図り信頼関係の構築に努めました。

（５）安定した収入の確保

体調不良、自己都合での欠席、入院者の増加に加え、積雪や天候により、上半期の稼働率は79.7%（1日平均23.9人）、下半期には送迎エリア範囲を拡大し、近隣地域（京丹波町）からの受け入れを積極的に行っていくことで、1年間通しての稼働率81.9%（一日平均24.6名）となり、昨年度に比べ、やや上昇傾向にありましたが、目標稼働率（83%・1日平均25名）には届きませんでした。

各事業所のケアマネジャーに利用空き情報を積極的に伝え、新規利用者の獲得や増回、臨時利用の促しを行い、稼働率の安定及びご利用者の継続した利用に繋げました。

コスト削減については、節電や節水、ペーパーレスに取り組みました。

加えて、行事等への必要経費に関しても、出来る限り安価で行えるような取り組みを職員全体で話し合いを行いながら進めました。

（６）職員の資質向上

昨年度と同様に老健会議を二部構成とし、月1回の研修を実施しました。研修内容は、動画配信サイトの動画を活用しました。当日参加できなかった職員についても同様の動画を視聴できる環境を整え、多数の職員が学びの機会を得ることができました。2月に外部の講師による排泄物品の講習会を開催しスキルアップに繋げました。

スタッフ会議を毎月開催し、職員間の情報交換、検討事項、共有すべき内容を確認し、資質向上に努めました。

（７）地域貢献

明治国際医療大学の実習生や殿田小学校の交流会を受け入れました。

また、殿田中学校へ職員を講師として派遣し、認知症の勉強会を開催しました。

2. 訪問リハビリテーション

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	5	5	6	6	7	7	
介護給付	4	4	4	4	5	5	
介護予防	1	1	2	2	2	2	
訪問延回数	18	18	23	30	28	33	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	8	8	9	10	10	10	91
介護給付	5	5	4	5	5	5	55
介護予防	3	3	5	5	5	5	36
訪問延回数	33	26	34	38	39	41	361

(2) サービスの質

要介護のご利用者が中心となっていましたが、下半期からは要支援のご利用者も増加しました。中には要介護から要支援へ変更となったご利用者もおられ、身体機能の向上がみられている方もおられます。訪問リハビリには満足いただけている方が多い反面、利用者の入れ替えが少ない状況ともなっており、訪問リハの卒業の促しなども含めて取り組む必要があります。

(3) 安定した収入の確保

年度初めと比較するとご利用者は増加しました。年度末で10件の利用者は、現時点で訪問可能な時間の中で最大人数まで確保できました。要支援の方は1年超での減算もあるため、施設医の診察にて減算を軽減する事も必要となります。次年度は可能な限り施設医の診察を進められるように体制を整えます。

(4) 職員の資質向上

老健主催の施設内研修、法人研修およびインターネット研修に参加し、知識向上に努めました。また、南丹地域の通所部会などの研修にも参加し、知識の向上とともに、関係各所との交流・意見交換を行うことができました。

(5) 地域貢献

在宅での生活を継続できるよう、ご利用者の身体機能だけでなく、介護者のケアも含めて援助できるよう努めました。

3. 訪問介護事業

(1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用実人数	20	18	19	18	20	20	
訪問延回数	126	134	124	130	139	163	
介護給付	85	106	99	113	108	124	
介護予防	41	28	25	17	31	39	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
利用実人数	20	20	20	20	22	21	238
訪問延回数	160	135	153	151	163	163	1,741
介護給付	119	99	111	114	127	125	1,330
介護予防	41	36	42	37	36	38	411

(2) サービスの質

少人数体制の中で、ケアハウスを中心としたサービス提供が円滑かつ効率的に行えるよう、日々取り組んでいます。

ご利用者の予定に応じて訪問曜日や時間の調整を行う際には、ご協力をいただきながら、限られた人員でも安定した事業運営ができるよう努めています。

また、ご利用者の生活様式や身体状況を十分に把握し、必要に応じて担当介護支援専門員へケアプラン内容の見直し等を提案するなど、ご利用者の自立支援に努めています。

職員の資質向上はサービスの質に影響するため、継続的な学びを大切にし、ご利用者に対して常に親切で丁寧なサービス提供ができるよう、今後も取り組んでいきます。

(3) 安定した収入の確保

常勤職員と他事業所との兼務の職員で、合計勤務時間 420 時間、常勤換算 2.5 名を毎月確保して運営しています。少人数体勢の中で、効率的な事業運営に努め今後も業績が向上するように努力していきます。

(4) 職員の資質向上

ヘルパー会議での情報共有や、法人のインターネット研修を利用する事で各職員の知識・介護技術の向上に努めています。研修は、計画的に実施し研修で得たことがご利用者にとって快適なサービスにつながり安心して生活して頂くよう努めます。年間を通して今後も計画的な研修をおこないます。

サービス提供を実施するうえで、報告・連絡・相談をしっかりと行い、職員間に情報や技術の差が生じないように努めています。

4月 「介護従事者の接遇マナー」

5月 「ヘルパー研修 そもそも「暮らす」とは」

6月 法人研修 感染症 手洗いチェッカー

道路交通法（安全運転講習）

YouTube 交通安全教育用映像教材「次はあなたかもしれない」

7月 「体温の異常と熱中症」

- 9月 「緊急時対応」の理解
- 10月介護BCP「自然災害BCP対策」
法人「虐待防止研修」
- 11月「虐待・不適切ケアを防ぐ」
避難訓練 水害想定
- 12月「感染症の予防と蔓延防止/食中毒の予防と蔓延防止」
- 1月 記録について「これだけは知っておきたい介護記録の不適切語・要注意語」
- 2月 「身体拘束排除の知識」
メンタルヘルス研修
- 3月「認知症ケアの理解」
法人 避難訓練BCP訓練「火災」

(5) 地域貢献

住み慣れた居場所でその人らしい在宅生活が維持出来る様に、各機関と十分に連携を取りながら、今後も質の高い訪問介護サービスを提供していきます。

4. 居宅介護支援事業(はぎの里ケアプランセンター)

(1) 年間計画作成件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
居宅介護支援件数	75	73	76	75	78	75	
前年度比	0	-3	+1	+1	+1	-2	
介護予防支援件数	34	36	37	35	36	35	
前年度比	+2	+2	+2	-1	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
居宅介護支援件数	78	79	77	75	75	74	910
前年度比	-4	+1	-3	+1	+3	0	-4
介護予防支援件数	34	34	35	37	38	37	428
前年度比	-1	0	+3	+4	+5	+2	+18

(2) サービスの質

居宅介護支援では、ご利用者一人ひとりのニーズを丁寧に把握し、課題を整理したうえで、介護保険制度に限らず他制度やインフォーマルな支援も含め、最適な支援につながるよう努めました。また、かかりつけ医をはじめとする医療機関や行政との連携が円滑に進むよう調整を行い、多岐にわたる事務作業についても優先順位を明確にし、迅速かつ丁寧な対応を心がけました。さらに、状況に応じて就労支援機関等との連携や、終末期の支援では医療・介護の連携を強化し、ご利用者と家族の意向に寄り添うケアマネジメントを実践しました。

(3) 安定した収入の確保

厳しい報酬体系の中で、より多くのご利用者を支援することが望ましい一方、多様なニーズを抱えるご利用者一人当たりにより必要となる支援時間や移動時間を考慮すると、適切な居宅介護支援を提供できる範囲での運営に努めています。また、毎月発生する給付外支援やシャドーワークに費やす時間も多く、収益性とのバランスに課題を感じる場面もあります。そのような状況の中、10月からは特定事業所加算Ⅲの算定を開始し、わずかではありますが収益の増加につながりました。今後も、算定に必要な要件を毎月確実に満たし、継続的に加算を取得することで、事業運営の安定化を図っていきたいと考えています。

(4) 職員の資質向上

職員の専門性向上に向けて、年間を通じて内部研修および外部研修への参加を促進しました。今年度は人事異動に伴い、指導を行う中で、事業所内で制度の振り返りや多制度の理解を深める機会となり、得た知識を業務に反映できるよう努めました。また、他事業所との事例検討会に参加し、困難事例への対応方法を共有することで、アセスメント力とケアマネジメントの質の向上を図りました。さらに、職員間の情報共有を円滑にするために週1回の会議を継続し、担当利用者は事業所全体で支えるという意識を共有することで、業務負担の分散と働きやすい体制づくりにも取り組みました。

(5) 地域貢献

認知症カフェや地域サロンへの送迎支援、運営協力を行うとともに、月1回の施設周辺の美化活動にも参加し、地域の一員として積極的に貢献してきました。また、見守りネットワーク会議に参加し、地域での取り組みや支援体制について学ぶ機会を得ることができました。

ご利用者の生活を支えるうえでは、公的サービスだけでは対応しきれない場面も多く、地域住民の皆様の協力が欠かせません。今後も、民生児童委員をはじめとする地域の方々と連携を深め、必要に応じて適切な支援につなげられるよう努めていきます。

VIII. 地域密着型サービス

1. デイサービスセンター

(1) 利用実績 利用定員18名

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延べ人数	399	409	397	398	379	417	
1日平均	15.3	15.7	15.3	14.7	14.6	16	
稼働率(%)	85	87.2	85	81.6	81.1	88.8	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	430	376	398	339	339	411	4692
1日平均	15.9	15	14.7	14.1	14.1	15.2	15.1
稼働率(%)	79.5	75	73.5	70.5	70.5	84.4	83.8

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
明治国際医療大学 柔道整復鍼灸学科	4～7月	100名
明治国際医療大学 看護学部4年生	7月	24名
明治国際医療大学 看護学部1年生	9月	10名
殿田中学職場体験学習	11月12・13・14日	2名
		136名

(3) ボランティア等受け入れ状況

名 称	活動内容	月 日	延べ人数
歌のボランティア (堀田様)	歌・ギター演奏	8月20日 12月25日	2名
			2名

(4) サービスの質

令和7年度は、職員の異動がありました。ご利用職員間の関係はサービスの質に深く関係する為、ご利用者個々に合った関わりを心掛け関係性の構築に取り組みました。

日々のサービス提供では、介護計画を基に目的を職員間で共有しサービス提供を行いました。病院受診や地域の行事、ご家族のご事情に合わせ、ご利用日や送迎、ご利用時間など柔軟な対応を心掛けました。

レクリエーション・余暇活動では、令和7年度も季節を感じて頂ける行事としてお花見ドライブやご利用者参加型の夏祭り、敬老行事などを実施した他、ご利用者同士の交流の時間も大切にしました。

リハビリ（機能訓練）では、個別での実施が満足度向上につながっており、世間話やサービス内容への意見を聞く機会となっているなど、利用日を楽しみにされているご利用者が増えました。内容についてはこれまでからの慣れた内容に変化をつけつつ個々の意欲を大切に実施しました。

今年度は第三者評価を受け、リハビリ・日々の関わりで高い評価を受けました。

次年度も、作り上げたご利用者との関係性を大切に、選ばれるデイサービスとなるよう努力します。

(5) 安定した収入の確保

収入は、目標1日17名（稼働率95％）に対し、15.1名（83.8％）となり達成する事ができませんでした。上半期は新たな職員体制なったことにより、振替利用と増回利用について上手く調整出来ませんでした。下半期はショートステイの定期利用と、予防給付のご利用が多く、稼働率の低下を招きました。

支出では、高額な予算執行を控えた他、日々の光熱費削減など、ご利用者へのサービスに支障がない部分での節約に務めました。

次年度は1人でも多くの方にご利用頂けるよう新規受け入れと日々の利用調整に力

をいれます。また、興風デイサービスセンターとの連携を進め、両事業所の収支が安定するようご利用者の調整を行います。

(6) 職員の資質向上

年間計画に基づき毎月研修会を実施しました。職員手作りの研修にこだわって来ましたが、準備の負担に考慮し、インターネット動画も使用しています。

新規採用職員を対象に育成計画を作成し、定期的に振り返り面談を行っています。接遇やデイサービスの業務について指導者から個別で直接指導を受ける事で人材育成と定着につながる事を期待しています。

インターネット動画(いつでも視聴可)や、南丹市・近隣事業所で開催された研修に参加しました。対面式では、他事業所のアイデアを知る機会となる他、良い刺激を受けモチベーション維持にもつながっています。

(7) 地域貢献

地域の方々が、デイサービスをご利用されることで住み慣れた地域で生活してほしいと考えており、今年度は実現出来ませんでしたが、地域行事の際などに、介護相談を受ける場があれば、参加したいと思っています。

職場体験学習や実習では、将来介護の仕事が選択肢となるよう、介護の仕事を知る機会として実習の受け入れを行いました。

次年度は、興風デイサービスのサービスの充実に向け、地域の方々との交流の中で脳トレーニングやレクリエーションを実施する機会を検討します。

2. ふれあいホーム

(1) 利用実績 登録定員25名(通い10名・泊まり3名)

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3

(2) 実習・その他受け入れ状況

・受け入れなし

(3) ボランティア等受け入れ状況

・受け入れなし

(4) サービスの質

サービス質の向上に向け、個別目標の明確化と運営推進会議の中で話し合われた意見や課題など業務改善に努めました。次年度の事業を見据えた取り組みとして、地域交流やふれあいホームの行事に地域の方に参加して頂き、地域貢献に取り組みました。ご利用者やご家族の要望・ご意見をお聞きした時には、職員間のミーティングや会議の中で情報共有を行い、課題を把握して解決策を模索し、適切なサービスが提供できるように努めました。

(5) 安定した収入の確保

登録者も徐々に伸びてきましたが、令和7年度は逝去や入院などにより登録者数が目標を下回り、通いや訪問数も連動して低下となりました。小規模多機能居宅介護事業所としては、令和8年3月で休止する事となり、新規獲得に向けた取り組みが難しい状況でした。コスト削減については、節電や節水などに努めました。

(6) 職員の資質向上

法人の各種研修に参加し、職員会議内での伝達研修と各職員が年間計画に基づきインターネット研修を計画的に行い、職員の資質向上に向け取り組みました。音健協セミナー2026通所介護の未来戦略の外部研修会では、介護保険制度改正、オンラインレクリエーション、音楽、歌による健康維持などの大切さを学ぶ研修に参加する事が出来ました。

(7) 地域貢献

年2回の消防訓練を地域の方と実施することが出来ました。地域の方8名が避難訓練に参加され、有事の際の避難場所の確認など行い、防災意識の向上につなげるよう努めました。また、8月には田原地域の夕涼み会に機材の提供や職員の要員応援で協力し地域貢献に努めました。

1 4 . 特別養護老人ホームはぎの里オアシス

(1) 利用実績

①長期入所定員20名（1ユニット10名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	18	18	19.8	20	20	20	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	19.8	18	18.3	19.7	19.3	19.2	19.2

②長期入退所状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	1	2	0	3	0		1
退 所 先	0	2	0	0	0	5	0

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
園部小学校4年生オンライン交流 (オレンジガーデニングプロジェクト)	11月17日	4年2組

(3) ボランティア等受け入れ状況

- ・受け入れなし

(4) サービスの質

今年度においても、感染症予防のため面会や行事に制約のある状況が続きました。規模や内容が限定的な中ではありますが、行事を通して季節の変化を感じたり楽しみを持っていただけるよう、施設内での夏祭りや花見外出等に取り組みました。

また地域密着型施設として、地域住民とのつながりを大切する取り組みとして、立地を活かしてベランダから横田区花火大会の鑑賞を楽しみました。地域のお祭りでは、子ども神輿がご厚意で施設前を巡行下さり、子ども達の元気な掛け声や太鼓の音に触れ活気を感じていただけました。

食事においては、四季折々の食事や各地の郷土料理も提供しました。また管理栄養士を中心に食事形態や食具、食事時の姿勢の見直しを多職種で行い、安全性と食べやすさの工夫をすることで、入所者の皆様に食事を楽しんで頂けるよう取り組みました。

ケアの中では、皮膚の清潔と合わせて保湿への取り組みで、皮膚トラブルは抑えられており、表皮剥離や褥瘡の発生件数も減少しています。

ヒヤリハット件数は年間37件、事故件数1件がありました。内容としては転倒と転落を合わせた件数が多く、割合としては入所後の日数の浅い利用者に多く見られる傾向にあります。この結果も踏まえ、慣れない環境の中での利用者の見守りに努めます。

(5) 安定した収入の確保

年間稼働率96%でした。入所待機者の減少はあるものの、常に入所待機者はあり稼働率低下の主な理由は情報収集や調整不足、入所前の居場所での感染症発生や、入所予定者の健康上の理由により、入所遅延になったことが要因でした。

また入所相談者としては、早期の入所を希望されることで当施設との空き状況とのタイミングが合わず申し込みに至らないケースも散見されました。引き続き、医療機関や居宅介護支援事業所からの相談しやすい関係づくりへの努力を行います。

(6) 職員の資質向上

年間研修計画（事故防止年2回、虐待防止・身体拘束廃止年2回、感染症対策年2回、褥瘡予防、安全運転、摂食・嚥下、認知症ケア等）に基づき施設内研修を実施しました。

近隣の施設有志による「福祉ネットワーク中京都」に参加し、サービス向上に向けて、他施設職員との意見交換や交流を定期的に行いました。

(7) 地域貢献

横田区の夏祭りや、美化作業での要員協力を通して、施設が一戸の家として地域での役割が持てるよう努めました。今後も災害など有事の際も助け合えるような関係づくりができるよう地域とのつながりを大切にしていきます。

5. 認知症対応型共同生活介護事業所はぎの里オアシス

(1) 利用実績

①入居定員18名（1ユニット9名）

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月平均入所者数	17.2	16.6	17.0	17.0	16.3	16.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
月平均入所者数	15.8	16.0	15.7	15.8	15.1	14.6	16.2

②入退居状況

	在宅	病院	特養	老健	ケアハウス	死去	その他
入所前の所在	2	1	0	0	2	0	0
退所先	0	2	1	1	0	1	0

(2) 実習・その他受け入れ状況

学校・実習名	期 間	延べ人数(実人数)
フクシ職場体験&キャリア	8月26日、27日、29日	3名（1名）
		3名（1名）

(3) ボランティア等受け入れ状況

・受け入れなし

(4) サービスの質

昨年度に引き続き、感染予防対策により外出やボランティアの受け入れ等に制限がありましたが、季節感を味わっていただける行事や雰囲気づくりに努めました。花見ドライブでは、他の花見客との接触を無くし屋外でお茶を飲みながら花見を実施しました。8月の夏祭りでは、ご自分で浴衣を選んでいただき着付けも一緒におこない

「懐かしい」と浴衣姿を大変喜んでいただきました。スイカ割りや屋台のメニューで夏祭りの雰囲気を感じていただけるよう工夫し実施することが出来ました。秋にはベランダで焼き芋づくりを計画し味わっていただき、紅葉ドライブでは馴染みの地域をまわりながら、季節を感じていただき気分転換ができた喜んでいただきました。新年元日にはカルタ遊びやお茶会を企画し、新年を祝い賑やかな一時を過ごすことが出来ました。また、あたたかい日には若宮神社へと初詣へ出かけ一年の無事を一緒にお願しました。2月節分行事には恵方巻をご自分で巻いていただき懐かしい、美味しいと喜んでくださいました。また毎月季節に合わせた手作りカフェを計画、一緒に作る楽しみを感じていただけるよう実施することが出来ました。

またご家族に生活や行事の様子がお伝えできるよう、隔月のグループホーム新聞の発行を継続、担当職員より一言様子を記入し送らせていただきました。

(5) 安定した収入の確保

上半期4月から6月の期間には3名の退居が続き利用実績が下がりました。退居より期間を開けず4月在宅・ケアハウス、6月ケアハウスより3名の新規入居となりま

したが、昨年度末の退居1件も重なったことや8月、9月と入院2名となり利用実績は下がりました。

下半期は10月1件の退居、11月には病院で逝去されました。12月からは3名のご利用者の入院・退院が繰り返され、大きく稼働率が低下したことで減収となりました。今後も状態の安定と稼働率を上げるために普段よりご利用者の体調の変化を観察し、早期の受診に結び付けることで、入院が長期化しないように努めます。入院となった場合には医療機関と連携を取り少しでも早くグループホームでの生活に戻っていただけるよう努めます。

課題としては、慢性的に利用者獲得が難しいため居宅介護支援事業所、地域包括支援センター・病院等を訪問して空き状況を伝えることで、新規利用者の確保に向けた取り組みを進めていきます。

業務の中では職員個々が節電意識を持って取り組み、また物品購入に関しても工夫し経費削減に取り組みました。

(6) 職員の資質向上

新規採用職員への指導、各職員への面談等を中心に資質向上に努めました。職員、個々の得意分野を伸ばせる業務体制を整え、働きやすい環境づくりに努めます。

職員会議内では、毎月研修を実施、インターネット研修の利用や法人研修内容を取り入れ、現状課題と考えられる内容と認知症の理解がサービスにつながるよう計画、全職員視聴・レポート提出とし、日々の介護を振り返る機会をつくることを意識し取り組みました。

法人研修・オアシス全体研修会では年間研修計画に基づき実施しました。課題としては、研修受講後の他の職員への伝達が不足していることで、学んだ知識技術をサービスに繋げることの難しさがありました。他研修として、法定研修（認知症介護基礎研修）の確実な修了や資格研修である認知症介護実践者研修の修了者もあり、現場での実習が認知症ケアに役立つように取り組みました。

(7) 地域貢献

地域活動の参加は感染予防対策のため直接の関わりを持つことはできませんでしたが、横田区のご厚意で神輿を近くで見学させていただき、また横田区スポーツ大会、とんど祭りはベランダから見学、ご利用者の楽しまれている様子をみることができました。

第一回運営推進会議では、委員の方に施設内をご案内させていただき、グループホームのご利用者の様子やベランダの畑等の生活の様子をご覧いただきました。二回目以降の会議では普段の様子や行事の写真をスライドで見させていただきました。直接施設内を見学いただいた事で雰囲気伝わりやすいと感想をいただきました。

第四回運営推進会議では委員様も一緒に消防訓練を体験いただく機会を持ち、実際に車椅子を押していただくなどご利用者と共に訓練に参加いただき、人の移動の難しさ、外部からの応援時の避難経路の分かりやすさなどのご意見をいただきました。

今後も地域とのつながりを大切に、可能な限り地域活動に参加できるよう努めます。